

主な内容

次年度に期待するもの	浅野 一	(1)
平成 28 年度 総会・懇親会のご案内		(2)
総会特別講演会	高尾洋之	(2)
平成 28 年度 通常総会 議案書		(3)
第 3 回 キャリア講演会報告	沖山秀司	(6)
目白だより 2016 年度 大学入試合格者数	齋藤有子	(8)
目白だより 卒業式・謝恩会・入学式報告	松本麻里子	(9)
獨協ドクターズクラブ・歯科医師獨協会の活動報告		(9)
獨協ぶらり旅	谷田貝茂雄	(10)
天野校長就任当時の思い出	島田秀考	(11)
コラム・ドイツ ヨーロッパトラム巡り第 1 回 BONN	谷口有三	(12)
獨協学園が私の人生に与えてくれたもの	林 謙治	(13)
クラス会だより		(14)
私の近況 卒後 10 年		(15)
私の近況		(17)
物故者名簿		(19)
P T A より「獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い」		(19)
獨協祭「第 1 回 私の趣味・逸品展示会」出品作募集		(20)
寄付金納入者一覧		(20)
編集後記		(20)

<http://www.dokkyo-mejiro.com>

獨協同窓会

検索



題字・天野貞祐

第 86 号

平成 28 年 5 月 10 日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 浅野 一

次年度に期待するもの

会 長 浅 野 一

伝統が続く獨協同窓会の会長を仰せつかり、今年度の総会で 4 年が経過します。同窓会々務のお手伝いを一人でも多くの方にお引き受け願ひ、活動の活性化と収支の改善を大きなテーマに掲げて参りました。

獨協同窓会でも母校への後援事業として、獨協学園 120 年・130 周年を機会に育英奨学金基金への寄付を実行しました。

現役学生に将来の就業意識に影響を与えることができればと、始められました卒業生によるキャリア教育講演会も O B 講演会の名称で学内行事として定着されつつあります。これは会計支出に負荷の掛からない事業でもあります。

私どもの心情のなかには、自分の帰属する母体を持つことで心の豊かさとする種の心地良さを獲得する何かが隠されているように思います。複雑さの増す世相のなかであって、同窓会には自己確立の基礎が作られた中学・高校時代の価値観を共有できる絆を思い起こす機会を提供する使命があると考えます。

設立 17 年を迎えた獨協ドクターズクラブ・充実を図る歯科医師獨協会をはじめ職域の O B 会、サッカー部・柔道部など活発な活動をされているクラブ O B 会に続く個別分野の同窓会にも支援して参ります。更には還暦同窓会・古稀同窓会などの開催ノウハウも集積

されつつありますので、同窓会報・ホームページなどを活用し今後の会開催準備の一助になりたいと思います。

同窓会の財務に関しましては、財務拡充寄付を会長 2 年目から 5 年間を期限でお願いしておりますが、お陰さまで毎年

見込みを上回るご協力を頂戴しておりますことをご報告し、心より御礼申し上げます。しかし財務基盤が決して盤石と言えないのも現実でありますので、140 年・150 年に備える意味からも、引き続きの寄付ご協力をお願い申し上げます。

同窓会総務委員会並びに会計では、財務政策の一環として新たな収入源を模索し、良識をもった広告収入に該当する企業（事業主）協力金（協賛金）の検討にも入っております。

会務のコスト意識を更に追求することにも取り組んでおります。支出予算に占める割合からも会報発行費



用の更なる検討も進めたいと考えております。また同窓会々務の重要事項であります会員情報の取り扱いに関しましては、個人情報保護の観点からも自主管理の方向で考えております。名簿発行も法と社会的価値観を勘案し発行を見合わせておりますが、同窓会最大の財産である会員情報を会報発行（発送）以外でどう活用できるか！ これも課題であります。

A L L 獨協構想に関しましては、まだ入り口の段階ではありますが、獨協学園 130 周年を機会に、自然発生的に目白の獨協中学・高等学校から獨協大学・獨協医科大学・看護専門学校・埼玉獨協中高・姫路獨協大学まで各学校の同窓会の繋がりが学園全体の拡がりをも

っております。卒業生のみならず学園構成員全体に及ぶ連帯感を形にできれば望ましいです。

最後に、同窓会組織の課題であります。幹事と常任幹事選任は歴史的経緯と同窓会の執行実務が限られた方に寄ってしまうという現実が背景にありました。

現在は同窓会実務負担の分散も進み、多くの常任幹事の方々によって会務が執行されております。同窓会の幹事は世代に偏りを起こさないように年度幹事選出が理想であると思いますが、明文化されていない幹事選任から実務負担が掛る役員の位置づけまでを見直す時期となっているのではないのでしょうか。

平成28年度 総会・講演会・懇親会のご案内

開催日時：平成 28 年 6 月 18 日 (土)

場所・時間：総 会 会 場：獨協中学・高等学校 小講堂

受付開始：午後 4 時 00 分

開 会：午後 5 時 00 分

懇親会 会 場：椿山荘・ギャラクシー

受付開始：午後 6 時 00 分

開 会：午後 6 時 30 分

懇親会費：(会場受付でお支払い下さい。)

＜懇親会費＞

満 75 歳以上の卒業生 …………… 無料

平成 23 年以前の卒業生 …………… 5,000 円

平成 24 年～平成 27 年の卒業生 …… 2,000 円

平成 28 年の卒業生 …………… 無料

同伴者 …………… 3,000 円

総会特別講演会

【講演】：増加する脳卒中患者 ～最新脳卒中治療と未来～

講 師：高尾洋之先生 (平成 6 年卒)

(東京慈恵医科大学脳神経外科准教授、先端医療情報技術研究講座准教授)

会 場：獨協中学・高等学校 小講堂

開催日：平成 28 年 6 月 18 日 (土)

受付開始：午後 2 時 40 分

開 会：午後 3 時 00 分



日本は、2025 年には、3 人に 1 人が 65 歳という高齢化社会になる。世界でも 6 人に 1 人は脳卒中を起こすと言われていまず。高齢化社会によって、日本では脳卒中患者が増加することは確実で有り、その対応が今後の課題である。近年、医療の進歩はめざましいものがあり、脳の血管が血栓（血の塊）で詰まっても、時間が早ければ、薬で溶かしたり、血管の中から、カテーテルで血栓を引き抜いたり様々な薬や医療機器が開発されている。さらに、スマートフォンの様な IT を使って、患者の搬送や医師の判断を迅速にし、治療開始時間までを短縮し、救命率をあげる取り組みが日本で始まっている。今回の講演で、脳卒中の最新治療から IT を使った取り組みなどの最先端医療と、世界で日本の IT 技術が医療の質を高めていることを紹介する。

平成28年度 通常総会 議案書

開催日：平成 28 年年 6 月 18 日(土)

《 総 会 付 議 事 項 》

第 1 号議案：平成 27 年度事業報告の件

第 2 号議案：平成 27 年度収支決算の件

第 3 号議案：平成 28 年度事業計画案の件

第 4 号議案：平成 28 年度収支予算案の件

第 1 号議案：平成 27 年度事業報告の件

4 年目を迎えた浅野一会長のもと、平成 27 年度事業計画に則り事業を施行した。柳原新副会長を迎え同窓会が組織化され、総務委員会を核にして各種委員会の検討事項を再検討し、常任幹事会、幹事会に測るシステムがスムーズに機能するようになった。

同窓会の財務健全化を測るべく、総務委員会等で同窓会費納入率向上を目指して多くの時間を割いて検討を重ね、一定の成果を得た。

初の試みとして総会の前に講演会を行い、心臓血管研究所の永島和幸氏（昭和 51 年卒）に、「ダヴィンチの観た心臓」というタイトルで大変興味深い講演をしていただき、終了後多くの会員から質問があり盛況であった。

総会後の懇親会では今年度より同窓生の家族も参加可能となり、新入会員のほか、現役学生、教職員も参加して盛大に行われた。

例年通り獨協祭に参加し、太平洋戦争終結前後に在籍した同窓生にインタビューを行い、その内容を掲示するとともに、当時の貴重な物品を展示し、多くの来訪者に評価、賞賛された。また、クラブOB会、職域のOB会のほか、「獨協ぶらり旅」の展示も行われ好評であった。

平成 25 年度に新たな事業として始めたOB講演会（キャリア教育講演会）は、第 1 回現 JTB 取締役会長田川博己氏（昭和 41 年卒）、第 2 回目は J リーグマッチコミッショナー、早稲田大学女子サッカー部監督福島広樹氏（昭和 41 年卒）に引き続き今年度は元朝日新聞外報部長亘理信雄氏（昭和 44 年卒）を招聘し、中 3、高 1、高 2 の生徒を対象にベルリンの壁崩壊の様子など貴重な体験談を中心に講演をしていただき、講演終了後には生徒よりたくさんの質問があり大変好評であった。

同窓会の活性化に向けた活動として「ALL 獨協構想」が活発に議論された。

広報委員会は独協通信 84、85 号を発行した。同窓生が経営するお店を紹介する「獨協ぶらり旅」が新たに始まり、独協通信に掲載された。

学校との交流も文化祭参加、卒業生への記念品贈呈、成績優秀者への記念品授与、父母向けの講演会開催等積極的に行った。さらに PTA とともに文化祭のバザーに協力し、収益は学友会への補助金として贈呈された。

＜名簿管理および事務局の管理業務＞

会員名簿については、個人情報守秘義務を遵守し、会員情報とともに同窓会事務局で厳重に管理されている。新規会員情報や既卒の会員の情報更新については、速やかに個人データ管理システムへ入力処理した。

第 2 号議案：平成 27 年度収支決算の件

会費収入は新卒会費の卒業時の一括前払いを実施しているため昨年より 28 万円減少しました。これに対し、財務拡充寄付が前年より 173 万円多く寄せられました。

収入の部の総額は昨年より 8.5% 増 金額にして 142 万円増加しました。

これに対し、今年度は母校への奨学金基金への寄付が無くなったことで 500 万円の支出減は図れたものの、会報送料の大幅値上げが実施されたことで事業通信費については昨年度より 141 万円増加してしまいました。

同窓会の内部留保を厚くすべく経費管理を行ったことで収支差額は 465 万円を計上することができました。

第 3 号議案：平成 28 年度事業計画の件

同窓会の組織強化と継続のため常任幹事、幹事を再編し、実働できる新しい執行役員を積極的に増やしていく。

同窓会の財政健全化に向けてさらに努力する。会員の高齢化による会費の無料化と比較的若年層の会費納入率が低いことで財政を圧迫している。各年齢層において経済的な諸問題があると思われるが、問題を分析し改善策を検討する。

新たな収入源の一つとして、広告収入に該当する企業協賛金（事業主協賛金）の検討、導入を行う。

同窓会の年度行事の 1 つとなった生徒、教職員、同窓会員に向けた OB 講演会（キャリア教育講演会）を今年も開催する。さらに、総会前に行った会員を対象にした講演会や PTA との合同講演会を積極的に開催し、広報活動に務める。

「ALL 獨協構想」については、獨協学園すべての同窓会と共同で事業を進め、獨協同窓会ドクターズクラブ、歯科医師獨協会、ホテル業界等多職種の交流会に参加し、会費納入のお願いを行う。また、会員が気軽に利用できる獨協人が経営するお店を紹介し、様々な領域で獨協人の輪を広げていくことを目的とした「獨協ぶらり旅」を継続し、独協通信に掲載する。

毎年各年代において同期会やクラブの OB 会が行われているが、さらに還暦、古希、喜寿、傘寿等の会や、卒後 10 年、20 年、30 年…の会等を積極的に企画提案し、同窓会活動の広報と会費納入のお願いを行う。

独協通信は例年通り 2 回発行するが、内容や郵送方法等コスト面を含めて検討する。また、ホームページの更新を迅速に行い、広報活動が積極的に行われるよう検討し、実行する。

第4号議案：平成28年度収支予算案の件

会費収入について決定的な対策が施せていないため、新たな財源確保とし昨年より議論を行ってきた『事業者・法人協力金』（※注）を 新設し今年度は集金に向けた活動をスタートさせます。

この他にも増収策について議論を重ねており実施できるものを具体化してまいります。

引き続き経費管理を進め、最大の支出になってしまった事業通信費の適正化に向けて改善努力します。

獨協同窓会 平成27年度 収支決算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

収入の部

	科 目	27年度決算額(A)	27年度予算額(B)	(A)-(B)	摘 要
1	入 会 金	6,300,000	6,300,000	0	30,000円×210名
2	会費	7,045,000	7,600,000	△ 555,000	
	一 般 会 費	5,875,000	6,300,000	△ 425,000	5,000円× 1175件
	新 卒 会 費	1,170,000	1,300,000	△ 130,000	新卒生 109名＋前年度8名
3	寄 付 金	3,207,224	1,250,000	1,957,224	
	財務拡充寄付	3,061,413	1,000,000	2,061,413	
	スマイルボックス	145,811	250,000	△ 104,189	
4	事 業 収 入	202,650	400,000	△ 197,350	
	懇親会会費	192,000	300,000	△ 108,000	
	協賛金	10,650	100,000	△ 89,350	
5	資産運用収入	67,358	50,000	17,358	利息等
6	雑 収 入		0	0	
	合 計	16,822,232	15,600,000	1,222,232	

支出の部

	科 目	27年度決算額(A)	27年度予算額(B)	(A)-(B)	摘 要
1	事 業 費	9,479,645	8,699,600	780,045	
	(1)総会費	1,613,871	1,600,000	13,871	総会、懇親会費
	(2)会報費	2,264,760	2,000,000	264,760	84、85号制作費
	(3)事業通信費	4,205,012	3,200,000	1,005,012	会報発送費等
	(4)OB会補助金	270,000	250,000	20,000	
	(5)学校補助費	739,750	770,000	△ 30,250	
	卒業生記念品費	369,750	320,000	49,750	
	図書費	200,000	200,000	0	
	学友会補助	170,000	250,000	△ 80,000	
	(6)奨学金基金への寄付		0	0	
	(7)ホームページ費	129,600	129,600	0	
	(8)獨協祭参加費	144,016	200,000	△ 55,984	展示物制作費
	(9)その他事業費		200,000	△ 200,000	『オール獨協』プロジェクト等
	(10)慶弔費	10,000	200,000	△ 190,000	
	(11)渉外費	102,636	150,000	△ 47,364	諸会費等
	(12)名簿作成費		0	0	
2	事務費	2,690,766	2,767,200	△ 76,434	
	(1)事務運営費	887,511	700,000	187,511	事務通信費、振込手数料等
	(2)管理費	794,500	1,000,000	△ 205,500	人件費、家賃
	(3)会議費	364,225	400,000	△ 35,775	
	(4)旅費交通費	271,618	250,000	21,618	
	(5)名簿管理費	367,200	367,200	0	
	(6)雑費	5,712	50,000	△ 44,288	
3	予備費		150,000	△ 150,000	
	小 計	12,170,411	11,616,800	553,611	
4	収支差額金	4,651,821	3,983,200	668,621	
	合 計	16,822,232	15,600,000	1,222,232	

貸借対照表

平成28年3月31日現在
(単位:円)

		(基本財産)	
利付国債	22,000,000	基本金	24,000,000
		(運用財産)	
		事業積立金	22,561,254
定期預金	19,000,000	(1)名簿積立金	2,000,000
		(2)一般事業積立金	20,561,254
現預金	10,213,075	収支差額金	4,651,821
	51,213,075		51,213,075

※ 定期預金は4行に預託。

収支差額金処分案

次のとおり、全額積立金に繰入のことにしたい。

(単位:円)	
基本金	0
名簿積立金	0
一般事業積立金	4,651,821
計	4,651,821

獨協同窓会 平成27年度決算 および 平成28(2016)年度 収支予算書(案)

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

収入の部

	科 目	28年度予算額 (A)	27年度決算額	27年度予算額 (B)	(A)-(B)	摘 要
1	入 会 金	6,570,000	6,300,000	6,300,000	270,000	30,000円/1名あたり
2	会費	7,300,000	7,045,000	7,600,000	△ 300,000	
	一般会費	6,000,000	5,875,000	6,300,000	△ 300,000	5,000円/1名あたり
	新卒会費	1,300,000	1,170,000	1,300,000	0	新卒生117名
3	寄付金	1,250,000	3,207,224	1,250,000	0	
	財務拡充寄付	1,000,000	3,061,413	1,000,000	0	
	スマイルボックス	250,000	145,811	250,000	0	
4	事 業 収 入	300,000	202,650	400,000	△ 100,000	
	懇親会会費	200,000	192,000	300,000	△ 100,000	
	協賛金	100,000	10,650	100,000	0	
5	資産運用収入	50,000	67,358	50,000	0	利息等
8	雑 収 入	0	0	0	0	
	合 計	15,470,000	16,822,232	15,600,000	△ 130,000	

支出の部

	科 目	28年度予算額 (A)	27年度決算額	27年度予算額 (B)	(A)-(B)	摘 要
1	事 業 費	8,999,600	9,479,645	8,699,600	300,000	
	(1)総会費	1,600,000	1,613,871	1,600,000	0	総会、懇親会費
	(2)会報費	2,200,000	2,264,760	2,000,000	200,000	86、87号制作費
	(3)事業通信費	3,500,000	4,205,012	3,200,000	300,000	会報発送費等
	(4)OB会補助金	300,000	270,000	250,000	50,000	
	(5)学校補助費	770,000	739,750	770,000	0	
	卒業生記念品費	320,000	369,750	320,000	0	
	図書費	200,000	200,000	200,000	0	
	学友会補助	250,000	170,000	250,000	0	
	(7)ホームページ費	129,600	129,600	129,600	0	
	(8)獨協祭参加費	150,000	144,016	200,000	△ 50,000	展示物制作費他
	(9)その他事業費	100,000	0	200,000	△ 100,000	オール獨協プロジェクト
	(10)慶弔費	100,000	10,000	200,000	△ 100,000	
	(11)渉外費	150,000	102,636	150,000	0	
	(12)名簿作成費	0	0	0	0	
2	事務費	2,817,200	2,690,766	2,767,200	50,000	
	(1)事務運営費	900,000	887,511	700,000	200,000	事務通信費、振込手数料等
	(2)管理費	800,000	794,500	1,000,000	△ 200,000	人件費、家賃
	(3)会議費	400,000	364,225	400,000	0	
	(4)旅費交通費	300,000	271,618	250,000	50,000	
	(5)名簿管理費	367,200	367,200	367,200	0	
	(6)雑費	50,000	5,712	50,000	0	
3	予備費	150,000	0	150,000	0	
	小計	11,966,800	12,170,411	11,616,800	350,000	
4	収支差額金	3,503,200	4,651,821	3,983,200	△ 480,000	
	合 計	15,470,000	16,822,232	15,600,000	△ 130,000	

第3回 キャリア講演会報告

広報委員 沖山 秀司（昭和49年卒）

同窓会では、渡辺 和雄 校長先生らと協議を重ね、平成25年から卒業生による講演会を企画しています。第1回講師：田川 博己氏（昭和41年卒 JTB 会長）第2回講師：福島 廣樹氏（昭和41年卒 早稲田大学女子サッカー部監督）に続き、第3回講演会を次の通り開催致しました。

日時：平成28年2月6日 13:30～15:00

場所：母校体育館

講師：亘理 信雄氏（昭和44年卒）

（元 朝日新聞社外報部長）

演題：「ドイツで見た私の現代史」

～ベルリンの壁崩壊～

対象：中学3年生～高校2年生



亘理 信雄氏 一略歴一

- 1966年 10月 獨協高校1年生に編入
- 1969年 4月 東京外国語大学ドイツ語学科入学
- 1973年 4月 朝日新聞社に入社、鹿児島支局員
- 1985年 9月 中東特派員（キプロス駐在）
- 1990年 5月 東ベルリン支局長
- 1997年 4月 ニューヨーク支局長
- 2002年 4月 外報部長
- 2006年 2月 国際本部長
- 2013年 10月 朝日新聞文化財団常務理事を退任

「ベルリンの壁」

第二次世界大戦で敗戦したドイツは、米英仏の西側とソ連による占領支配を受けて東西に分断され、それぞれが別の国 (1) となりました（西独と東独）。戦前

からの首都ベルリンは東独領内にありましたが、米英仏が管轄する西ベルリンとソ連が管轄する東ベルリンとに分断されました。両独のうち西独の戦後復興は目覚ましく、東独から東西ベルリンの境界線を越えて西側に逃げる人が後を絶ちませんでした。このため、1961年8月13日、東独政府によって「ベルリンの壁」の建設が始まり、西ベルリンの周りをぐるりと取り囲むようになりました。

「海外特派員」

氏は就職に際し、朝日新聞社に応募しました。単純に自宅で長いこと購読していたからです。景気のよい時代で、採用されなかったなら、翌年再び就活しようと、のんきな心構えでした。

朝日新聞社では、鹿児島支局が初任地になりました。主な仕事は、警察で事件・事故の取材に明け暮れる毎日でした。

ドイツ語はできるけれど、英語は苦手だった氏の海外勤務は、1985年に中東から始まりしました。

1989年秋、東欧民主化の応援取材で出張中にベルリンの壁の崩壊 (2) という現代史の節目に遭遇します。ウィーンで東独の取材ビザをなんとか手に入れ、東ベルリンに入ったのが11月7日。その2日後に壁が崩れたのです。

氏は取材で使ったタクシーの運転手と気が合ったので、その晩はこの運転手の奥さんも招いて、東独の暮らしについて食事をとりながら話を聞きました。ホテルに帰る前に、東独の国民はこれから直接、西独や西ベルリンに自由に行けるようになるという発表があったから、壁



を見に行こうということになりました。

運転手は「おかしい。いつもと違う」と言い出しました。壁に近づくと不審者に見なされることが多いので、人通りが減るはずなのに、逆に増えていると言うのです。西ベルリンへの国境検問所に着くと、黒山の人だかりで、閉ざされたゲートを揺さぶっています。間もなく、それがパーンと開き、群衆が西へと流れていきました。

こうして、「ベルリンの壁」という「鉄のカーテン」の最も分厚い部分に大きな穴が開いたのでした。この歴史的な大事件を朝日新聞は、獨協同窓生コンビで報じました。西独の首都ボンには特派員として雪山伸一さん（昭和35年卒）がいたのです。ちなみに、当時NHKのボン特派員だった亘理氏の兄も獨協の同窓生で、同窓生3人が、「壁崩壊」とその後のドイツ統一を日本に報じ続けました。

1時間ほどの講演が終わると、熱心にメモを取っていた生徒達から30分を超える質問がありました。第二次大戦後、ドイツと同じように分断された朝鮮半島の将来についての質問もありました。これに対し亘理氏は、朝鮮半島の場合、ドイツとは条件も違うので、今後の予測は難しいとしながら、ドイツと違う点を比べることで、朝鮮半島問題の課題も浮き彫りにできるとの答えがありました。また、報道のあり方への質問も続きました。メディアの報道については、一社の情報を鵜呑みにせず、関連情報を探し、自ら考えて判断することが大切だという説明がありました。様々な媒体による情報が錯そうする現在であるだけに、「本当にそうなのか」という疑問を抱いて考える重要性を強調されていました。

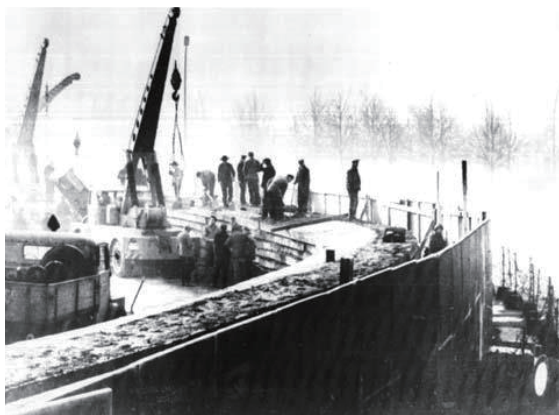


- (1) 西独＝ドイツ連邦共和国
(Bundesrepublik Deutschland)
東独＝ドイツ民主共和国
(Deutsche Demokratische Republik)

- (2) ベルリンの壁崩壊
1989年、ソ連の東側陣営に属していた東欧圏で民主化の気運が高まり、11月9日にベルリンの壁が崩れた。翌90年10月3日に東西ドイツの統一が実現した。



左から 柳原副会長、松本教頭、渡辺校長、
亘理氏、浅野会長、木原幹事長



建設中の「ベルリンの壁」 Wikipedia



ベルリンの壁 右側が西ベルリン
左側の空き地には地雷が埋められていた
Wikipedia

目 白 だ よ り

2016 年度大学入試合格者数

進路指導部長 齋 藤 有 子

皆様初めまして。今年度から進路指導部長を務めさせていただく齋藤有子と申します。獨協奉職 14 年目にしてこのような大役を仰せつかりました。何分未熟者ではございますが、熱意をもって取り組んで参ります。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、今年度の大学入試動向は、景気回復の傾向が入試にも大きく影響し、今までとは真逆の「文高理低」と言われる結果となりました。一方で、メディカル系統（医歯薬）の人気は継続し、特に医学部志望の生徒

にとっては相変わらず厳しい入試となりました。そのような状況の下、本校の生徒は現役生・既卒生共々努力の成果を十分発揮しております。特に文系の伸びは目覚ましく、「安田研通信」では MARCH 合格者数が前年度より大きく躍進した学校として 6 位に取り上げられました。また、既卒の医学部志望者が初志貫徹し大健闘しております。以下、詳細な資料をご覧ください。

2016 年度大学別合格者数（推薦者も含め延べ人数）

進路指導部

<国公立大学>

東京	1
北海道	2
東北	1
東京外国語	3
東京農工	1
横浜国立	2
筑波	2
千葉	3
宇都宮	1
弘前	1
熊本	1
九州工業	1
首都大学東京	1
横浜市立	1
小計	21

<文科省所管以外>

防衛大学校	1
小計	1

<私立大学>

〔合格者の多い順〕

日本	77
明治	48
法政	47
立教	33
中央	27
千葉工業	26
早稲田	23
青山学院	22
東洋	21
上智	20
東海	20
東京理科	20
成城	14
芝浦工業	13
東邦	13
獨協	12
東京都市	11
玉川	10

帝京	10	敬愛	1
東京電機	10	帝京平成	1
立命館	10	デジタルハリウッド	1
北里	9	桜美林	1
成蹊	9	順天堂	1
専修	9	高千穂	1
東京農業	9	明治薬科	1
明治学院	9	明星	1
学習院	8	麻布	1
慶應義塾	8	神奈川工科	1
國學院	7	神奈川	1
駒澤	7	関東学院	1
近畿	7	横浜薬科	1
獨協医科	6	金沢工業	1
拓殖	6	中京	1
工学院	5	龍谷	1
城西	4	兵庫医科	1
杏林	4	岡山理科	1
大東文化	4	小計	668
武蔵	4		
埼玉医科	3		
国士館	3		
東京工科	3		
日本医科	3		
武蔵野美術	3		
武蔵野	3		
立正	3		
岩手医科	2		
千葉商科	2		
東京成徳	2		
昭和	2		
大正	2		
多摩美術	2		
東京医科	2		
東京薬科	2		
日本歯科	2		
東京工芸	2		
聖マリアンナ医科	2		
金沢医科	2		
帝京科学	2		
日本薬科	1		

<専門学校>

城西放射線技術専門	1
小計	1

<併設校>

獨協	12
獨協医科	6
小計	18

*獨協大学（推薦 2 名、一般 10 名）
獨協医科大学（推薦 6 名）

<医学部医学科>

獨協医科	6
北海道	1
岩手医科	2
金沢医科	2
北里	5
杏林	3
埼玉医科	3
順天堂	1

昭和	1
聖マリアンナ医科	2
帝京	2
東京医科	2
東邦	2
日本	3
日本医科	3
兵庫医科	1
小計	39

<歯学部>

昭和	1
日本歯科	2
小計	3

*推薦：日本歯科 公募 1 名、
日本推薦 2 名

<薬学部>

東京理科	1
北里	2
東邦	2
東京薬科	2
帝京	1
帝京平成	1
城西	3
日本薬科	1
明治薬科	1
横浜薬科	1
小計	15
合計	766

<推薦入試等>

獨協医科推薦	6
獨協推薦	2
指定校推薦	8
公募推薦	3
A O 入試	2

卒業式・謝恩会・入学式報告

教 頭 松 本 麻 里 子

平成 28 年（2016 年）3 月 10 日（木）、高等学校卒業式が行われました。今年度は 194 名が母校を巣立ち、それぞれの道へ進んでいきました。当日は、卒業証書授与の後、寺野彰理事長の挨拶、渡辺和雄校長の式辞のほか、ドイツ連邦共和国大使館文化部ボルグハルト・ゼーレン氏よりお祝いの言葉をいただきました。また、同窓会からは、卒業生全員に記念品を、また卒業生 6 名に特別賞をいただき、柳原克忠同窓会副会長より代表者へ授与されました。生徒たちは同窓会からの毎年のご厚意と表彰を励



3 月 10 日 高等学校卒業式

みの 1 つとしております。卒業生たちに代わり、御礼申し上げます。

式典後、ホテル椿山荘東京へ場所を移し、謝恩会が行われ、卒業生保護者と来賓・教職員で和やかな時を過ごすことができました。

4 月 6 日（水）の午前中は中学入学式、219 名の新入生を迎えました。寺野彰理事長、犬井正獨協大学学長、浅野一同窓会会長などのご臨席をいただいて举行され、新しい 1 年がスタートしました。



4 月 6 日 中学入学式

獨協ドクターズクラブ・歯科医師獨協会の活動報告



第17回「獨協ドクターズクラブ」懇親会

平成 28 年 2 月 27 日母校小講堂にて講演会、その後椿山荘にて懇親会が行われ、伊藤公一会長（写真前列右から 4 番目）をはじめ 80 人以上が参加し盛会であった。

講演会

演題 1: 「C 型慢性肝炎・肝硬変のインターフェロンフリーの新しい治療」

日本大学医学部内科学講座

消化器肝臓内科学分野 教授

S44 年卒 田中直英 先生

演題 2: 「再生医療の現状と展望」

日本大学医学部細胞再生・移植医学分野 教授

S56 年卒 松本太郎 先生



第 5 回「歯科医師獨協会」懇親会

平成 28 年 4 月 16 日、母校小講堂にて学術講演会が行われ、中原爽会長（写真前列中央）の開会挨拶の後、昭和 53 年卒の北川昇先生による講演があった。その後、椿山荘にて懇親会が開催された。代表世話人 滝川先生の挨拶後、獨協中学・高等学校の渡辺校長から、又、同窓会の浅野会長から励ましのメッセージを戴いた。約 100 名が集い親睦を深めて盛会であった。

講演会

演題: 「超高齢社会と歯科医療について」

S53 年卒 北川 昇 先生

（記・池松）

この企画は、獨協中学・獨協高等学校の卒業生が経営する「お店」をぶらりと訪ね、お店の様子を皆さんに報告するという新しい試みです。皆様の周囲にも多くの獨協生が経営するお店や獨協生に親切なお店があると思います。ぜひ同窓会までご紹介ください。地域で頑張る獨協生を応援しましょう！

千駄木路地（イタリアンレストラン）

平成4年卒業 幸島 丈さん

谷中・根津・千駄木「谷根千」では、今なお下町情緒をのこす町並みが広がっています。「千駄木露地」は、そんな千駄木にある日本家屋を改築したイタリアン。築80年の2軒の連なった家屋を改築、再生しました。京都の町家のような造りになっているのは、そのせいで奥行きのある構造になっています。フロアは、2つに分かれ、カウンター席がある道路側と落ち着いた雰囲気のある奥側です。かつては、道路側では、お蕎麦屋さん、奥側は住居だったそうです。築80年ということで、もともと素材の良い建物だったのでなるべく良さを活かしながら リノベーションされています。入り口の格子戸や2階につながる階段、大きな梁は懐かしさを感じます。その中で、欄間を使った間仕切りや古材で作ったカウンター壁面などの モダンさも取り入れました。選りすぐりの料理とワインをいただきました。



定休日：毎週水曜日と第1・第3火曜日
11:30-15:00 (LO 14:30)
18:00-23:00 (LO 22:00)
www.sendagiroyji.com
〒113-0022 東京都文京区千駄木 2-42-2

純喫茶 デン

昭和35年卒業 根本公一さん

孤独のグルメにも登場した、知る人ぞ知る、話題の『珈琲の店 DEN』です。鶯谷の駅から徒歩6分ぐらい、住宅街の一角にあります。店内は、テーブルソファ席が5席と3名分のカウンター席。実に、昭和の懐かしい香りが漂う昔ながらの喫茶店。昭和生まれにはいい感じです。しばしばマスコミに登場する名物のパン一斤を器に使った「元祖グラパン」が素晴らしい。外はカリッと香ばしくトーストされ、中はしっとり、もちもちの生地、それに並々とグラタンが注がれ、その味は、家で作るグラタン、素朴で家庭的な感じ。



東京都台東区根岸 3-3-18 メゾン根岸（鶯谷）1 F



レストラン トリノ（イタリアン）

2代目 赤平匡正さん

初代が獨協を昭和27年卒業の（故）赤平正健さんで、ご子息の匡正さんが、跡を継ぎマネジメントをしています。今までも、かなりクラス会などでお世話になっている。“獨協生”には、特に親切だとか。

場所は外堀通りに面していて、エントランスには、黒い1951年型のライトスポーツカーのMGが置かれ目印になっています。メニューは、イタリアンの軽食から種々のパーティー料理を供し、日曜・祝日は休業ですが、人数によりクラス会のため臨時にオープンしてくれます。フリードリンク付きパーティーコースがお得です。



東京都新宿区揚場町 1-3
JR 飯田橋駅西口出て右へ
外堀通り右へ
メトロ4線 飯田橋駅
B 4a 出口2分、ドコモ隣り
(白いシャツ姿が赤平店長)



天野校長就任当時の思い出

島田 秀考（昭和 31 年卒・旧姓：藤井）

日暮机に向かい 60 年前の事を徒然なるままに記しますのでご判読頂きたく存じます。

我々昭和 12 年生まれの、天野貞祐校長先生から授与された獨協中学卒業証書の初めての生徒です。チョット誇らしい気も致しますが……

待望の天野先生にご就任戴いた事は全校揚げで、先生も、生徒も欣喜雀躍致しました。

先生をお迎えするにあたり、生徒会が何回となく開かれました。

それは、27 年 5 月頃新しく就任された校長先生が、生徒から信頼されていた三人の先生を解任した事により生徒会が開催され、それが発展し、膨張して校長先生の排斥運動に繋がってしまった様です。何か確信が有った訳でもないのに、天野先生の就任を熱望するあまり授業放棄を執行する動議を提出し、裁決に入り過半数を獲得しました。

議場はいよいよ授業放棄執行となった。

その時、議長の言葉「過半数は取りましたが、この様な重要議題は三分の二の賛成が必要です。従ってこの議案は否決されました」毅然として発した言葉。

議場騒然。過半数で良いんだ!! 実行実行しろ!! 議長の言う通り……等々

正にその時演壇に立ったのは、高三の青地先輩（病気のため二年程留年し大先輩に見え、秀才で憧れの的でした）。その時の言葉「君たちの気持ちは解るけど、僕は、君たちのその若さが怖いんだ!!」説得力がありました。騒然と成りながらも、授業放棄する事なく事態は收拾され、どの様な経緯が有ったのか我々生徒には知る由も有りませんが、年が明けた三学期には天野貞祐先生が校長にご就任されておりました。この喜びは正に筆舌に尽くし難い歓喜でした。

大分前から、学校関係者の間では天野先生の校長就任を望む声は大きかった様ですが、中学生の私には知る由も有りませんでした。

天野先生はご就任と同時に東大出身の三人の若い先生、平野健二、刀根薫、神田直人の先生方を召請しました。平野先生は高校一年五組我々のクラスの担任になられ、刀根先生は解析 I（数学）を教授されまし



右側が筆者



た。平野先生は岩波文庫の巖谷小波氏の孫に当たる方です。小波氏も獨協の先輩です。獨協の先輩には著名の方々が沢山居られびっくり致します。

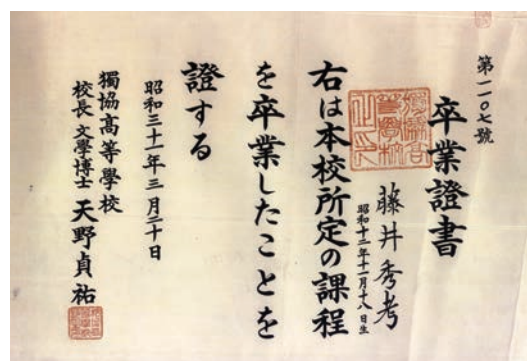
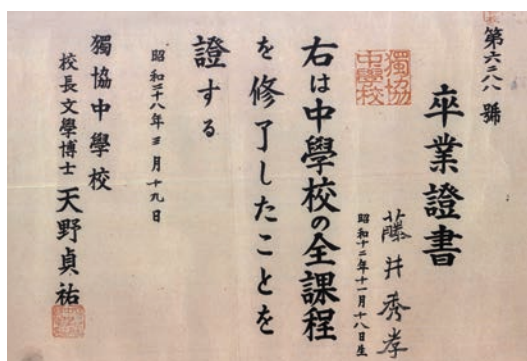
天野先生に運転手付の自家用車が用意されていましたが、ブルーバードが出る数年前の事ですから、日産の極々小さい軽自動車でした。小柄の先生とはいえ吉祥寺からではさぞお疲れの事では無かったかと思いました。文部大臣の頃は大きな車でしょうから……

木造校舎の二階にある講堂に生徒を何回かに分け講演をなさいました。一度に集ると床が抜ける心配がある講堂でしたから。記憶に残る先生の言葉「人間は考える葦である」一時生徒間で良く使われる言葉となりました。先生の話をもっと良く拝聴しておけば良かったと反省しきり。

「歴史正しき伝統の、七十年はけみすれ、歳古きなる学び舎は、傾き染めて入相の鐘に夕日も誘われる、黄昏時の星屑は冷たく光り又は消え或いは落つる流星の、尾を引く姿さながらに暗夜航路の有様を、疎ましきこそ言うべけれ。時しもあれや一国の文部大臣と仰がれし、天野貞祐先生は、月あきらけき吉祥寺、世に残すべく筆とると、心静かにただすまい、虫の音さえもすみとおる、ほろほろと鳴く山鳥の声聞けば父かと思ふ母かと思ふ、田園將に荒れとす帰りなんいざと唐人が詠じて帰る帰去来の……」この琵琶歌は先輩の作曲で、獨協の現状を歌い天野先生を迎え如何に感涙にむせんだかを詠んだものです。

獨協祭の折にご自身が演奏をする予定でしたが、ご都合が悪く国語の村松定孝先生が情緒豊かに代読した姿が印象的でした。

その学園祭の折、歌舞伎の声色、勿論近松門左衛門を演じ



たのが大久間喜一郎先生、「吃又の死」を演じた田尻先輩は後にオンデコ座を主宰した。司会の上手かった浅井、川口両先輩、ドイツ語の酒井アルマ先生のお子さんと酒井兄弟、後に大学の学長を務めた先輩……、忘れられぬ方々です。

同期では、川合玉堂のお孫さんで大蔵舜二君写真家として一家を成し又中学の頃から蝶々の採集が得意でしたがこの方もかなり有名です。

隣の四組（ドイツ語クラス）に古今亭志ん朝（美濃部強次）が外交官を目指しドイツ語を学んでいました。父親の志ん生師の所へかの小泉信三先生がお見えになり、落語会の大事な宝だから噺家にするようにと頼んだそうで、外交官を諦め噺家になりました。落語も名人でしたが、ドイツ語も名人でした。

医学部、歯学部、薬学部出身の友達が数十人おりま

すが、未だ獨協医学部も、獨協大学も創立前の事ですから、これも獨協面目躍如足るものと思います。

卒業式は新校舎だったのか思い出せませんが、優等生には天野校長直々にオックスフォードの英英辞典が贈られました。我がクラスからは三名、勿論私は含まれておりません。以来、知り合いの大学の入学祝いにはこれを進呈する事にしております。天野先生と同じ物を贈るよと伝えながら。

今は無き白亜の新校舎が出来たのは高三の時でした、三階の奥の教室が我等五組の教室でしたが、アールのついた正面から右の方にあと半分ができる予定でした。新校舎が眩しく立派に見えました。

一昨年学園祭に何十年ぶりに出かけましたが、今はもっと立派な校舎が建っておりましたが……この次の同窓会には必ず出席いたします。

コラム・ドイツ

ヨーロッパトラム巡り 第1回 BONN

谷口 有三（昭和53年卒）



『江戸川橋』や『音羽3丁目』へと都電を使って通学したという読者は還暦以上の先輩だと思う。私が獨協中学に入学した昭和47年にはもはや軌道の面影はなくなっており、ほとんどのクラスメートは目白駅からの『獨協学園』と表示された学バスが登下校の足であった。まだ、地下鉄有楽町線は開通していなかった。校舎の車寄せまで入ってくる都営バスの思い出は沢山あるが、私の長年にわたり、そして今もってひとり海外出張で乗りまくっている路面電車のことなら私でも書けるか、の乗りで貴重な誌面を汚すことになった。連載が中止にならないように、思いを込めて綴ってみる。

『ボン』、最近、この地名をめっきり耳にしなくなった。しかし、私にとって海外の路面電車の乗り初めはこの街であった。在学中の1970年代は東西ドイツがあって、首都は西ドイツについてはボンであった。'77年（昭和52年）の夏、現在の獨協生が訪独の機会を得ているPASCHとほぼ同じ、高校生のドイツ招聘制度があり受験の高校3年生の夏ながら丸1か月、ボン、ハーメルン、西ベルリン、ミュンヘンの順で滞在させて頂いた。こここそが、人生初の海外旅行であり、かつ海外に行くことで食べられるようになった我が人生の出発点であった。当時の首都見学にトラムを使った。首都なのに人口はわずか30万人、大小の船が行き来するライン河に面した緑豊かなごくごく小さな町。そこにシュミット首相の官邸、総理府、国会議事堂、各政党本部が点在しそれを結ぶように路線が張られていた。日本大使に挨拶に訪れた際も電車だったと思う。従来型の路面電車シュトラセンバーンに加えて、進化系のシュタットバーン、英語で表現すると



ころのライトレール路線が完成したてであった。車輪径が大きなスラッと脚の長いドイツ人女性を思わせる日本にはないデザインの連節車の重連で70キロにて軽快に、初代首相アデナウアーの名を被せたメインストリートの中央車線を走り、市の中心街に入ると地下に潜るという初めて見る鉄道システムだった。そして、もうひとつ驚いたのは女性の運転士さんが何人もいたこと。走路を遮るクルマがあれば怒りを表しゴングをカンカン鳴らし、進路変更したドライバーをキッと高い運転台から正に上から目線で睨みをきかす。何もかも珍しかったドイツのトラム、それから40年近く月日が流れてしまったがラインの女王とも見えた車両たちも、去年訪れた時にはその数を減らして世代交代してしまっていた。電停で何本も待ってやっと来た“彼女”を見たとき遠い夏の日が蘇ってきたのだった。

（次回は、ドイツ・ザクセン地方の深い森の中をいくローカルトラムを紹介します。）

獨協学園が私の人生に与えてくれたもの

瑞宝中綬章 叙勲 記念寄稿

林 謙 治（昭和 39 年卒）

昨年古希を迎えてしまいました。古より稀と言いますが、今では全然珍しくない時代になりました。4年前に長い間勤めておりました厚労省の研究機関であります国立保健医療科学院を退職しましたが、退屈に耐え切れずまた働きだしたところ、結局つい最近まで週7日間仕事するようになりました。あまりに余裕のなさに周りが心配してくれるので現在週5日だけ働くようにしております。

余裕の時間は何をしているかというと、ボランティアで日中医学協会の仕事と音楽鑑賞に明け暮れております。考えてみればこの2つとも獨協時代の体験とそれなりに関係していることに気づきました。私は英語クラスに在籍しておりましたが、当時ドイツ語の授業時間もありました。千葉大学時代もドイツ語を履修しましたが、得意科目とまではいきませんでした。簡単な小説なら読める程度になりました。

もともと語学が好きでしたので獨協時代から英語の先生に可愛がられ、昨年も当時の先生であった児玉先生（のちに獨協大学教授）から突然電話を頂き、何十年ぶりにお会いしました。先生は現在でもオランダの一地方語のフリジア語の辞書編纂にいそしんでおられ、毎日散歩しながら単語を暗記しているそうです。自分の後継者難を嘆くと共に将来貴重な資料の散逸を心配しておられました。

中学時代から語学に関心を持っていたことを述べたかったのですが、大学時代に英文小説の翻訳アルバイトをしたり、卒業間もなく英検1級に合格しました。お陰でアメリカ留学も順調に進みました。千葉大学に当時留学生部があり、いずれ全国の国立大学に進学する予備課程ですが、そこの世話役を引き受けました。アジア各国からの留学生はほとんど華僑系であったため私は中国語の学習に励み、それが基礎となつてのちに日中交流の仕事を始めたわけです。考えてみれば獨協カラーというのは生徒に語学に関心を持たせるということだろうと思います。

もう1つ趣味の音楽のことですが、当時上林先生がおられて私たちに難しい音楽理論よりは音楽を愛する心を育てたのだと思います。クラシック音楽が中心でしたが、生徒たちのリクエストにほとんど応じてくれました。聞くことと歌うことの楽しさを体に覚えさせてくれたのです。高校卒業するまでにほとんどのク

ラシックの名曲を出だしだけを聞けば、曲名、作曲者、バロックなのかロマン楽派なのか周辺情報をすぐに言えるほどにはまっけてしまいました。今でもハイレゾのウォークマンにそれ以外のジャンルの

ものも沢山入れて毎日楽しんでおります。音楽は心を癒し、幸せの感情を呼び起こします。音楽を通して私の専門である国際保健という分野で多くの友人、協力者ができて大きな仕事につながりました。一生の宝です。

趣味ではありませんが、数学の増田先生も忘れられない方です。数学と音楽はそれぞれ理論と感情の塊のようで無関係にみえますが、モノとして存在しない、つまり実体がないという意味では共通性があると思います。数学は記号の学問であり、楽譜もやはり記号ですが音楽は聴覚を媒介にしているという意味では違いがあります。増田先生はたいへん厳しい方で、理論には寸分の妥協も許さないのが数学の宿命ですので当然だったと思います。私はある程度先生の要求に応えられたほうだと感じております。後に自覚したことです。が学校で数学が得意だということと数学者の資質があることとはまったく違います。しかし、数学の訓練は思考の整理に役立ちます。私が公務員時代に厚労省やWHOの統計業務に多く参加できたことも獨協の与えてくれた財産です。

今振り返ってみますと、語学、数学、そして音楽とも獨協時代に礎を築き上げたものばかりであり、これらが1つに混じりあって私の人生の航路が開けたと思っております。同級生たちも獨協時代に教わったことの混じりあい方がそれぞれ違うかもしれませんが、私と同じ思いを持っておられるのではないのでしょうか！

母校に感謝です！！

<林 謙 治氏 略歴>

- 昭和 39 年 獨協高等学校卒業、千葉大学医学部卒業後、昭和 50 年同大学医学研究科（公衆衛生学）を修了し、学位を取得。
- 昭和 55 年 Yale 大学医学部疫学教室留学
- 昭和 61 年 国立公衆衛生院衛生人口学部 部長
- 平成 14 年 国立保健医療科学院 次長就任
- 平成 17 年 高度保健医療統計の専門家としてWHO事務局長諮問委員
- 平成 21 年 国立保健医療科学院 院長就任
- 平成 24 年 同院退職、名誉院長。
- 平成 27 年（秋）瑞宝中綬章 叙勲。



同期左から 堀内、鹿島、柳原、林、守屋、大塚の各氏

昭和 49 年卒有志 還暦同窓会

平成 28 年 1 月 30 日～31 日、恩師 吉田 卓司先生ご夫妻をお招きして箱根に集いました。吉田先生は獨協医大設立と同時に医大にてご活躍され平成 19 年 4 月、名誉教授を授与されました。私たちの目白生活時代には、サッカー部、ラグビー部顧問としてもご指導頂きました。（幹事：3 組 滝沢 報告：1 組 沖山）



昭和 52 年卒 中四国会

フリーゲル <翼>

きっかけは、独協通信です。世代を超越し集う仲間



祝中四国・獨協会発足！

ほんのひと時、目白台で培った学生時代を懐かしむ会。まだ、少数ですが……。参加してみませんか。ご連絡お待ちしています。 平山（岡山）090-3963-1672



バンデ<絆>

時には恩師を懐かしみ本気で泣き笑いできる仲間。旧独会の 6 人です。年に 1 度、男子会を開いています。次回は 11 月の予定です。

昭和 57 年卒 3 年 4 組 還暦同窓会

昭和 57 年卒萩野組同窓会が 2 月 20 日に神山町まめひろで催されました。当日はあいにくの雨でしたが恩師萩野元祐先生の還暦をお祝いしようと 13 人の級友が集結しました。先生からは中学 1 年生を最後の担任として持たれた感想など母校の近況報告がありました。また柔道七段になられ鍛え抜いた筋肉の塊であ

ります先生をもってしても頸椎、腰椎の故障に悩まれていたことには驚きでした。髪と病気自慢をしながらもお互いの変わらぬ笑顔に杯を重ね一同愉快的な時間を過ごしました。還暦のお祝いとしてクリスタルグラスと残念ながら参加できなかった桑島から花束が贈られました。在校中は若かりし先生の指導が熱心のあまりに窮屈な思いも多々ありましたが今となっては懐かしく思い出されました。恩師とはいえまだ若く卒業から 34 年となりましたが、末長く頑固兄貴を交えて同窓会を開催できるクラスである幸せに感激しました。参加者は秋本、板場、宇都宮、江田、太田、佐藤（彰）、佐藤（知）、進藤、高橋、武井、細野、本多、柳沢でした。消息不明となっている級友が増えております、お心当たりある同窓はご連絡いただければ幸いです。

（武井和夫・記）



平成 26 年度卒 成人を祝う会

2016 年 1 月。新成人になった僕たちは、獨協校舎目の前にある椿山荘にて卒業以来の大同窓会を開催しました。当日は高校時代にお世話になった担任の先生方にもご参加いただき 125 名の同級生が出席して久しぶりに楽しい会話を弾ませました。懐かしい顔を見てワイワイ盛り上がりあちこちでにぎやかな笑いが聞こえる光景は中高時代を思いだしとても懐かしく感じました。当日残念ながら参加できなかった人、中高時代にお世話になったたくさんの先生方も含め、卒業し、成人しても、集まればすぐにあの頃のように戻れる関係が中高 6 年間の獨協生活の重みだと思います。（といっても



卒業後たった2年しか経っていませんが…)普段中々会えない友達とも会えたことが個人的に幸せでした。また何年か後にこうして集まればと思います。何年経っても変わらぬ6年間を思い出しますように。

(幹事:永井・羽賀)

剣道部OB会 獨協戸隠会

平成27年12月23日、剣道部稽古納めの日にあわせてOB会を開催いたしました。稽古納めでは毎年恒例の中学校全員による気合いの入った紅白戦が行われ、締め稽古では現役からOBまで全員が参加して竹刀を交えました。稽古後には校内の教室にて、ご父兄に協力頂きOBと学生による懇親会も開かれました。引き続きOB会を開き、山口会長(S46年卒)の退任と当日不在ではありましたが新会長に就任頂いた新井先輩(S49年卒)の紹介がありました。山口先輩におかれましては18年の長きにわたり会長を務めて頂き本当にお疲れ様でした。また今後、山本君(H19年卒)がコーチとして仕事の合間に剣道部の指導にあたって頂

けることも決まりました。目白通り「入り江」にて開かれたOB懇親会では例年のことながら世代を超えて楽しいひとときを過ごせることができました。当日の稽古納め及びOB会の出席者は、日名子(S45年卒)、山口(S46年卒)、佐久間(S50年卒)、大宅(S54年卒)、山本・渡辺(H19年卒)、松岡(H20年卒)、宮川(H21年卒)、北原(H22年卒)、三輪・清水・名取(H24年卒)、坂本・石井・松延・武田(H25年卒)、館・花村(H26年卒)、秋元(H27年卒)〔敬称略〕の総勢19名が参加しました。

(大宅正起・記)



私の近況 卒業 10年

●お蔭さまで元気しております。良き時代のアメリカ音楽の普及に務めております。(スイング・ポピュラーピアノプレイヤー) <秋満 義孝(昭和21卒)>

●今年で87才、獨協中学を含め多くの学友や知人が亡くなったり、病気で苦しんでいるのは淋しい限り。私の方は体が“ガタ”ついていますが永年お世話になった富士銀行OB会囲碁部でへば碁を楽しみながら、まだまだ頑張るつもり。

<阿部 恒巳(昭和21卒)>

●私の時代は軍国主義の時代で学校の配属将校と教官が常駐し、軍需工場に毎日夜勤、投稿は週1日木曜のみ教練を主体とし、学業より訓練に明け暮れ、殆んど授業の思い出がありません。現在86才、物の溢れた平和の日本で幸せに日々過ごして居ります。

<植戸 督(昭和21卒)>

●小生この2月で86歳になります。独中には杉並区阿佐ヶ谷の家から通いました。在学中武道は今泉師範から剣道を学ぶ、師範は常に羽織袴の姿で古武士然として居られた。阿佐ヶ谷駅の近くの道場に通いました。小生は現在散歩と読書の日々です。未だ未だ元気です。

<堀内 経夫(昭和21卒)>

●お知らせありがとうございます。定年退職後、クレマチス、秋明菊の品種改良、育種栽培をしていました。所が突然脳内出血で倒れ、右片麻痺失語症になり、字も書けなくなりました。リハビリの甲斐もなく車椅子生活をしていましたが、現在は病院に入ってます。

<宮田 復太郎(昭和21卒)>

●小生、来年は米寿を迎えます。日々のウォーキング、

週一日のグランドゴルフ等で身体を動かし何とか元気で過ごしています。尚、幾つになっても母校への想いは変わりなく、懐かしい思い出は決して忘れません。

<相沢 正晴(昭和21卒)>

●私の獨協時代はぼけっとした高校生活を送りました。高校に入った時からフルートを習い始め、国立音大に入り卒業後フライング音大にゼメスター留学をしました。獨協でドイツ語に入らなかった事を当時後悔した事を覚えています。

<佐々木 親綱(昭和31卒)>

●年令相応にあちこち故障がちですがなんとか持ちこたえています。31年卒ドイツ語クラス会は名幹事山口真護君のおかげで、年2回の開催となり、くらしに潤いが増えました。飽きることなく獨協時代の話で盛り上がっています。

<池田 彰男(昭和31卒)>

●中学入学式でのこと。講堂の演壇後方真上、ずらりと掲げられた偉そうな人物の写真(歴代校長)。西周、桂太郎、加藤弘之 等々。どういう人々かわからなかったが、その時の光景を時々思い出す。印象が強かったのだろうか。

<清水 洌(昭和31卒)>

●老化が進んだか運動不足か首が痛み、背中、腰が曲がり気味と感じる。散歩ならできると思い歩いて筋肉がつくよう努めています。

<卯月 一好(昭和31卒)>

●ドイツ語クラス31年卒業生です。卒業のときドイツ語クラスは26名です。現在は生存者13名です。年1回クラス会を開催しておりますが、物故者が多いため年2回開催することになりました。(古今亭志ん朝含む)私は自営業ですが、時間が取れる様になりま

したので、頭の体操のためドイツ語教室に通っております。先生は美人のポーランド人です。妻も頭の体操のためピアノ教室に通っております。毎日が充実しております。孫は4人皆健康です。担任の富岡先生も健在です。先生6月のクラス会に出席です。楽しみにしております。

＜小倉 宗武（昭和31卒）＞

●中学時代、夏の伊豆三津浜、野尻湖など楽しい思い出が今も眼に浮かびます。中学・高校とも天野校長先生が中心にお座りの卒業写真を見ながら、クラスメートとの交友を思い出しています。傘寿を迎える歳ですが、健康に留意し、囲碁・ゴルフ等楽しんでいます。

＜栗原 伸介（昭和31卒）＞

●古い書類を片付けていたら、昭和28年10月22日付の「工作」三等の賞状が出てきた。見ると中学入学の年で創立70周年記念祭とあって、改めて歴史の古さに驚いた次第。

＜小川 尚（昭和31卒）＞

●若い時は獨協出身の先輩達に多くの人材が育ち、社会的に貢献していることを知っております。でもそれは昔のことと思っておりました。ところが自分が年をとってから後輩達にも多くの人材がいることを知りました。獨協教育の何が役に立っているのでしょうか、どなたかご意見を!!

＜林 謙治（昭和39卒）＞

●孫が7人にもなり彼らが医師になるのを夢見てそれを見届けるまで死ねません。90才までイカせて下さい、神様。

＜三木 昇平（昭和39卒）＞

●診療（整形外科）に忙殺される毎日ですが、寄稿の依頼で獨協高時代を思い出します。土屋先生、栗原先生には大変お世話になりました。また旧友と都下の山々を巡ったことが脳裏に浮かびます。古希を迎えた今、級友と再会したいと思っています。

＜豊島 弘道（昭和39卒）＞

●現在は埼玉県蓮田市にある蓮田病院健診センターに、週1日半勤務しています。自宅のある浦和から1時間で行けます。又、毎年2月に獨協ドクターズクラブに出席しています。

＜佐藤 忠一（昭和39卒）＞

●獨協大学経済学部を卒業後、神奈川歯科大学を30才で卒業。現在歯科開業後22年で、長く仕事をしようがんばっています。

＜藤堂 高幸（昭和39卒）＞

●耳鼻咽喉科を専門とする医師として病院勤めを続け定年退職いたしました。公的病院の副院長として病院の電子カルテ導入とか医療安全の確保などの業務にも携わりました。大病もしないで70歳の誕生日を迎えることができました。

＜堀内 正敏（昭和39卒）＞

●数年前、切っ掛けはわすれましたが、高校1年6国（主管田代先生）の仲間数名とゴルフをした時、たまたま小生がホールインワンをしてしまいました。これを契機に、年2回のゴルフコンペと奇数月の第二木曜日の飲み会が定例となりました。

＜久保田 和博（昭和41卒）＞

●獨協同窓会に関係して11年になります。幹事長の時は会費を増すことに、会員の幹事を増すことに頭がいっぱいでした。監事になって余裕ができてわかってき

ました。

＜中村 昭美（昭和41卒）＞

●苦しい山登りから解放されて40年。当時のワングルの仲間の内3人が他界してしまった。顧問の飯島先生に撮って頂いた山での写真を見ると、苦しい時や山から下りて解放された皆の顔が懐かしい。

＜阿部 武（昭和41卒）＞

●60歳にて栃木県佐野市内にレディースクリニックを開院しました。まだまだ頑張っています。時々高校時代の仲間とゴルフをしています。

＜丸山 正次（昭和41卒）＞

●卒業半世紀、懸案だった「歯科医師獨協会」も立ち上げる事ができ、個人的には自院は子供にほぼ任せ無歯科医村群馬県上野村（30年前のJAL墜落現場）で週3日程、ムラ・ムダは多少ありますが、無理せず「良い加減」の診療を心がけボランティアの真似事でのんびり過しております。

＜森田 芳和（昭和41卒）＞

●48会と言う会を22年前に4～5人で立ち上げて毎年40～50人が大騒ぎ、名刺交換もしないで中高そのままの乗りで、ストレスがパーっと吹き飛びます。

＜浜島 裕（昭和48卒）＞

●卒業し早43年、ドイツとの取引に携わり31年やはりドイツと縁が続いています。また、ヒットラーユーゲントの史料を頂き、我が母校が歴史の証人である事を誇りに思っています。

＜小野 十美雄（昭和48卒）＞

●栃木県内で皮膚科を開業し20年が過ぎ、患者サイドに立った医療を目指し多忙な毎日を過ごしております。去年は運動不足、暴飲暴食がたり、病気を患ってしまい、健康の大切さを日々感じております。

＜藤澤 崇行（昭和51卒）＞

●体力の衰えを感じている日々ですが、フットサル・山登りでリフレッシュしております。

＜鈴木 忠臣（昭和51卒）＞

●獨協同窓会常任幹事をつとめています。クラス会や地域の集まりが行われていますが、ぜひとも6月の同窓会総会と懇親会にも皆様で御参加下さい。

＜谷田 貝 茂雄（昭和51卒）＞

●ぼくは、ビルはテナントに貸してビル管理と経理をしています。平成27年6月14日（日）は、1人日帰り旅行をしました。開業した北陸新幹線で金沢に行きました。

＜入間 満哉（昭和51卒）＞

●私の獨協時代の思い出は旧独クラスです。その結果医師になってからも英語には苦勞し、選択を悔いた時期もありましたが、ドイツ人の義弟とビールを飲み交わせる最近は有意義な良き日々だったと思うのです。

＜宮下 浩平（昭和51卒）＞

●スポーツニッポン新聞（スポニチ）のスポーツ記者として35年、サッカーW杯や五輪も取材、まもなく定年。

＜大西 純一（昭和51卒）＞

●在学中のことについて何か書くようにとの依頼がありましたので当時のことについて書きます。毎朝「カツ江と悠里の朝風呂問答」を聴いてから、登校していました。当時は母校の大先輩の出演されている番組だ

私の近況 卒業 10年

とは気付きませんでした。とにかく楽しい番組だったと記憶しています。 <山崎 洋介(昭和 61 卒)>

●卒後 30 年、社会人になり結婚をし親になり子供が就活中。諸先輩方からみると、まだまだでしょうか。それでもここまで人生歩いてきました。沢山の先生、友人のおかげです。獨協で学べて本当によかった。

<岡本 浩一(昭和 61 卒)>

●地元足立区で薬局を営んでおります。中学入学から

36 年目、独逸語クラスで欧州文化を学び、柔道部では幅広き知見や親交に恵まれました。まさに獨協は、大海に繰り出す櫓を授けて戴いたと感謝しております。

<福澄 重泰(昭和 61 卒)>

●運動嫌いな私ですが、30 代後半で疲れやすくなったように感じ、このままではいけないとフィットネスクラブに通い始めました。 <増野 智(平成 8 卒)>

私の近況

●80 歳を過ぎ孫を相手として一日を過ごす事が多くなり、年に 2・3 回のトレッキングを楽しんでいます。

<多賀 秀世(昭 24 卒)>

●足腰が大分弱くなりましたが、他は異常無く、家内共平穏に暮らしています。 <中條 嶺(昭 24 卒)>

●外見は元気。皮膚科医は口と眼が達者ならなんとかなるので、まだ診療しています。不動前、青戸、相模原、横浜クイーンズスクエア、余目の五か所でチイマです。 <本田 光芳(昭和 25 卒)>

●病気はしていないが、やっと生存しているということです。老後は好きなことをしている。

<織田 陽二(昭 25 卒)>

●歯科医師として平成 21 年迄開業していましたが、老齡の為廃院致しました。現在 82 歳で加齡の為あちこち身体の調子が良くありません。欠席いたします。申し訳ありません。 <岡野 昇(昭 26 卒)>

●最近は老人病特有の高血、糖尿、腰痛なので家にて療養中です。 <東元 秀公(昭 27 卒)>

●同年代の仲間の旅立ちの知らせが入る度、気持ちが重くなります。皆さんお元気で!!…元気にしております。

<赤堀 光男(昭 28 卒)>

●毎年 6 月第三土曜日は他の学会の研究会と重なり、残念ながらいつも欠席です。 <酒井 府(昭 28 卒)>

●引き続き電気通信大学学術調査員、船積前検査員(IUTERTEK,GTS)をやり、週一回の水泳教室に参加しています。 <桑嶋 陽一(昭 29 卒)>

●昨年末で完全に退職致しました。現在は自宅で大学時代からの山行資料・写真等のデータ整理を行っております。 <足立 康弘(昭 30 卒)>

●日本科学未来館および国立科学博物館でボランティア活動をしています。 <頭本 元清(昭 30 卒)>

●31 年ドイツ語クラス 77 歳になりました。自営会社なので電話番、見積書作成等現役で頑張っております。週末妻と軽井沢の山荘で過ごすのが楽しみです(自動車で運転です)。クラス会は物故者が多いため山口幹幹事が年 2 回といたしました。これからも残った旧友と仲良く酒を酌みかわし、今後の人生を楽しみにしております。 <小倉 宗武(昭 31 卒)>

●元気に仕事しています。趣味のゴルフ月に 2 回～3 回。 <小林 智(昭 32 卒)>

●母校より数分の所に住んで居ります。日頃散歩の

コースとして学園周辺を徘徊しております。元気で無邪気な在校生達を見る度に妙に懐かしさと、つい“オイ頑張れよ”と云う気持ちになってしまう昨今です。

<高橋 龍二(昭 34 卒)>

●戦後米軍基地となった我町、米兵と夜の女パンパンの子供の目でみた風俗を紙芝居で発表中。インターネットで迄、御高覧。 <田中 利夫(昭 35 卒)>

●家族の介護の為目白を離れる事が最近できなくなり、集いも失礼申し上げております。皆様の御多幸を祈ります。 <久保田 蓋(昭 35 卒)>

●今年 73 歳になりました。弟の高橋洲三郎、従弟の高橋徹がお世話になりました。これから大きく発展して下さい。 <高橋 武聡(昭 35 卒)>

●介護ヘルパーとして要支援(介護予防)認定利用者様の身体的機能訓練をお手伝いさせて頂いております。以上 <佐藤 隆一(昭 36 卒)>

●53 年前にアマチュア無線の資格を、2 年前に 51 年振に無線局を再開局、獨協中高ハムクラブ(JQ1ZEL)と交信が出来、感激しています。

<齋藤 正興(昭 36 卒)>

●母語の日本語を世界に撃ち込むため、詩人の肉聲を鍛えるを Projet La Voix des Po ★ e'tes (詩人の聲)を 2006 年 10 月 14 日創立し、プロデューサーとしてこの 6 月 30 日で第 1274 回を刻んだ。その間、2013 年 5 月イラク・バビロン国際詩祭、2014 年 9 月イラン国際詩祭に招待参加。そしてこの 5 月、「詩人の聲叢書」の第 1 巻、天童大人詩集『長編詩 ピコ・デ・ヨーロッパの雪』(響文社)を、第 7 詩集として刊行。是非、Smazon でお買い求めください。

<松本 匡史(天童大人)(昭 37 卒)>

●この 4 年二つの大学の公開講座を受けてます。一つは W 大学の「川柳講座」、もう一つは京都の R 大学の「欺異抄講座」。年下の諸先生方の講義をととても楽しく聴いてます。 <前田 良祐(昭 37 卒)>

●製薬企業(ノバルティスファーマ K.K)を定年退職後 11 年目、未だ週 2 日店頭にて医薬品販売をしています。販売と言っても健康に関する諸々、栄養、サプリメント、介護、受診の可否と選択科等の相談、時には包丁の研ぎ方、捌き方、山菜の最適なあく抜きなど、さほど薬と関係のない話で 1 日を終えております。残る 5 日間は長年所属している浅草ヘラ鮎会での優勝

私の近況

を目指し練習する事、定年後取得した河豚包丁師の腕にぶらない様努力する毎日を過ごしております。

＜五前 國明（昭 38 卒）＞

●生まれて育った関東での生活に決別し、自然豊かで人の少ない東北盛岡で余生を楽しんでおります。

＜久保田 稔（昭 39 卒）＞

●企業監査・審査業務を継続して実施中。定年後のリタイア期間もなくいまだ企業人としての気持ちは変わりありません。

＜今井 眞（昭 40 卒）＞

●本年 4 月より息子（伊藤傑）に理事長及び院長を継承しました。私は併設介護保健施設ハピネスせりがやの施設長を主とし、病院外来、訪問診療等を行っています。

＜伊藤 旺（昭 41 卒）＞

●特に仕事をしていません。稀に現役時代の電気知識を活かして、LED 照明や太陽光発電等のアドバイスをしています。

＜塚本 啓喜（昭 41 卒）＞

●阿出川先生（中学時）、高橋運宣先生（高校時）他多くの先生方の影響を受け、65 歳になりました今も、神奈川県立の霧ヶ丘高校と神奈川工業高校の二校で非常勤講師（英語）を致しております。獨協グループの益々の発展を祈ります。

＜槌 俊和（昭 43 卒）＞

●福岡県小郡市で開業しています。犬を飼って妻と一緒に育てています。楽しいですね。

＜毛利 康成（昭 44 卒）＞

●現在 61 才になりますが、コンピュータソフト開発関連会社を経営し、現役の SE としても頑張っております。

＜堀 邦彦（昭 47 卒）＞

●NHK 学園・日本放送協会学園高等学校と望星高等学校にも所属してまして、桃園小学校では久保田先生、中根茂先生と開高幸一先生・山川知子先生・倉重先生・秋山先生・中村先生そのほか丸山先生とか原先生に所属していました。桃園小学校によれば日比谷高等学校にも受かっているとのことでした。八重洲学園高等学校にも受かっているとのこと。ゆりかご幼稚園によれば中央大学付属高等学校受かっているとのことでした。ゆりかご幼稚園は昭和 63 年度（昭和 64 年）で閉園してしまいました。NHK 学園・日本放送協会学園高等学校は昭和 59 年度 1 年間ですが、昭和 44 年度ぐらいからずっと見ていました。小尾信輔彌・竹内均・吉田一男などほかにもいろいろな先生がおりました。

＜鈴木 豊彦（昭 48 卒）＞

●アイスホッケーは月 7 回プレーしていますが、最近途中脱落した柔道をケーブル TV で観戦してます。「1 本勝ちの柔道」諸外国の動きに流されることなく愚直に日本柔道を貫いて欲しいと思った。

＜大島 康成（昭 48 卒）＞

●3 月で、中学校教師としての停年退職をしました。4 月より再就職の場を大学講師として、英語教育に携わっています。管理職としての 10 年間に英語教育から離れていました

ので、今、また再び英語を教えることへの重要さを感じています。60 才すぎても仕事ができることに感謝し、健康に留意して頑張ります。

＜飯塚 陸（昭 48 卒）＞

●上尾市民マラソンのコースとなっている為、たまに応援に行きますが、ランナーのランニングシャツに“D”の一字が書いてある選手を見ました。思わず“獨協”と思い声援を送ったのですが、“獨協”の D ですよね？

＜田原 理一郎（昭 48 卒）＞

●静岡県富士市（旭化成富士支社）に単身赴任が続いております。当日は、富士支社のゴルフイベントがすでに予定されており出席できませんが、よろしくお願い致します。

＜鈴木 茂行（昭 49 卒）＞

●来年 9 月に停年退職を迎えます。あと一年ちょっとですが悔いの無いよう一日一日の仕事を大切に勤めていこうと思います。

＜梅津 英幹（昭 50 卒）＞

●私の趣味は自転車ではなく、自動車です！、笑。同朋の趣味の方、今後ともよろしくお願い致します。

＜斉藤 勝一（昭 50 卒）＞

●製薬企業にて薬剤師有資格者として総括製造販売責任者を務めています。医薬品の安全性と品質保証の両面からその責務を果たし、一方でコールセンター機能の一面から患者さんを始め医療従事者を支えております。昭和 51 年卒メンバーのごく一部としか交流はありませんが、楽しく同窓会・同期会を開催しています。

＜千葉 昌人（昭 51 卒）＞

●歯科医師獨協会で同窓の先生方と知り合う事が出来ました。フェイスブックのページもありますので、是非ご覧ください。

＜三浦 健二（昭 51 卒）＞

●父の診療所の手伝い（見習い？）から早や 25 年が経ち、独身貴族期間が長かったせいか、来春やっと長男が医学部受験を迎えます。現役合格の暁には希望する新車購入の密約が既に取り交わされております。私も迅速なる往診を目指し、月 1 で富士スピードウェイやツインリンクもてぎを駆け抜けております。御同道の方は一声おかけ下さい。

＜曾谷村 泰弘（昭 52 卒）＞



4月6日入学式当日、新入生を歓迎する正門の満開の桜

物故者名簿 (『独協通信』 84 号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏 名	物故年月日	昭和 20 年	諸隈 巧	2014/07	昭和 35 年	関口 隆司	2015/09/12
昭和 11 年	高橋 善三	2014/06/11	昭和 21 年	奥田 千秋	2015/04/03	昭和 35 年	町田 勝彦	2004/
昭和 10 年	坪田 実	2013/07/11	昭和 21 年	中島 直光	2009/04	昭和 35 年	神谷 和時	2014/06/29
昭和 13 年	菊地 敏之	2015/12/31	昭和 21 年	南保 彰	2006/12/01	昭和 36 年	青木 達也	2014/
昭和 13 年	木本 智	2016/01/02	昭和 21 年	眞船 順	2014/06/08	昭和 36 年	黒沢 駿雄	2013/6/29
昭和 16 年	稲垣 茂	(不明)	昭和 21 年	丸山 光弘	2015/02/11	昭和 36 年	駒津 定彦	2015/02/28
昭和 16 年	倉谷三男四郎	2015/03/31	昭和 22 年	古屋 道雄	(不明)	昭和 36 年	白勢 皎	2014/12/10
昭和 17 年	内田 東五	2015/12/29	昭和 22 年	前川 均	2015/10/16	昭和 36 年	中村 芳雄	2015/10/
昭和 17 年	折原 一郎	2014/10/16	昭和 23 年	麻井 武明	2014/10	昭和 36 年	菱沼 義興	2015/05/25
昭和 17 年	神田橋 優	2014/12/29	昭和 23 年	伊原 忠人	2015/07/27	昭和 37 年	宮本 英篤	2015/05/22
昭和 17 年	小林 一雄	2011/04/20	昭和 23 年	幸阪富次郎	(不明)	昭和 37 年	鈴木 剛	2014/04/06
昭和 17 年	長澤 豊行	2014/07/27	昭和 23 年	西村 俊也	(不明)	昭和 37 年	余郷 晴彦	2014/2/13
昭和 17 年	林 徳憲	2014/12/28	昭和 24 年	柴崎 毎茂	2015/01/28	昭和 38 年	大井 信昭	2015/05/01
昭和 18 年	尾崎 守夫	2015/05/10	昭和 25 年	北條 浩	2014/12/04	昭和 38 年	山中 俊之	2015/05/26
昭和 18 年	小針 慶治	2011/10/28	昭和 25 年	吉田 隆史	2015/02/01	昭和 39 年	田村 宏	2015/06/23
昭和 18 年	羽野外志雄	2015/08/18	昭和 25 年	高橋 邦雄	2013/12/6	昭和 40 年	門倉 秀昭	(不明)
昭和 18 年	広木 勉	2015/01/03	昭和 26 年	吾妻 年男	2014/11	昭和 40 年	松原美智雄	2002/03/02
昭和 19 年	村山 和良	2015/08/01	昭和 28 年	外山 光夫	2013/1/7	昭和 41 年	岡本 英明	2015/08/18
昭和 19 年	山岡修三郎	2015/08/21	昭和 29 年	大村 一也	2014/04/06	昭和 42 年	有賀 裕康	2014/11/22
昭和 20 年	原田 茂久	2013/3/20	昭和 29 年	小倉 政一	2014/04/12	昭和 43 年	渡辺 明	2014/7/23
昭和 20 年	井上 富夫	2014/01/18	昭和 29 年	吉良 繁	2015/04/13	昭和 46 年	西 信雄	2013/11/6
昭和 20 年	濱島 関郎	2015/01/21	昭和 29 年	打矢 偉之	2012/11/3	昭和 47 年	一色 修二	(不明)
昭和 20 年	牛島 國雄	2015/01/25	昭和 30 年	竹内 琢哉	(不明)	昭和 48 年	原 正彦	2013/7/6
昭和 20 年	渡邊 勲	2015/06/01	昭和 30 年	宮内 邦雄	(不明)	昭和 50 年	天岸 敏郎	(不明)
昭和 20 年	宮田 光郎	2014/12/07	昭和 30 年	佐藤 誠一	2005/01/09	昭和 51 年	高橋 優	2015/10/13
昭和 20 年	明石郷三郎	2014/06/06	昭和 31 年	遠藤 和夫	2015/03/11	昭和 52 年	蒲田 道博	2015/05/27
昭和 20 年	多田 眞鋤	(不明)	昭和 31 年	武井 征男	2015/09/	昭和 62 年	松野 美宣	2013/6/28
昭和 20 年	藤山 俊彦	2015/08/31	昭和 33 年	谷口 梓	2014/01			
昭和 20 年	井垣 和平	2014/11/07	昭和 33 年	増谷 衛	2014/6/11			
			昭和 33 年	中山 晃	(不明)			

獨協中学・高等学校PTAより「獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い」

PTA会長 松 田 英一郎

昨年は、多くの同窓生の皆様より獨協祭・バザーにご協力いただきまして誠に有り難うございました。おかげさまで例年以上の収益金をあげることができ、子供たちに還元することができました。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、今年も9月24日(土)・9月25日(日)の日程にて、獨協祭が開催されます。

P T Aでは昨年に引き続き、同窓生の皆様に獨協祭に参加していただき、更にバザー用品のご寄付ならびにご提供もお願いしたいと考えております。

バザーの収益金は、学友会への補助金として施設の改善、及びクラブ活動等の活性化に役立てられています。皆様には、後輩である在校生のために、お手元に眠っているお品物がございましたら、下記要領をご参照のうえ、ご提供下さいますようよろしくお願い申し上げます。

また、獨協祭ならびにバザーにも、ぜひ一度遊びにいらしてください。在校生、P T A委員一同、心よりお待ちいたしております。

記

1. バザー用品受付期間とご提供の方法

- ・9月1日(木)～9月23日(金)
 - ・宅急便にて下記迄お送りください。(元払いでお願い致します。)
- 〒112-0014 文京区関口3-8-1

獨協中学・高等学校「P T A厚生委員会」 TEL 03-3943-3651

- ・直接学校へご持参いただく場合は、主事室前廊下で受付しております。

＊お問い合わせ先 事務・淀縄(よどなわ)まで
(ロックアウト期間中の8月を除く)

2. ご提供品について

- ・新品もしくは未使用のものをお願い致します。
- ・会社名などが入っているもの、試供品・景品・粗品などはご遠慮ください。
- ・食品は賞味期限に余裕のあるもの、未開封のものをお願い致します。



獨協祭 “第1回 私の趣味・逸品展示会” 出品作募集

9月24日(土)、25日(日)の2日間、獨協文化祭が開催され、同窓会は今年も会員相互の交流と親睦をかねて、OBならではの文化的企画で参加いたします。昨年は、「戦時下の独協生」をテーマに、先輩方のご尽力で、厳しい時代ながら明るく、遅しく勉学に励んだ独協生の様子が伝わる意義深い展示会ができました。今年は、「第1回 私の趣味・逸品展示会」と称し会員の皆様から、自作の作品を自薦・他薦を問わず、ご自慢の趣味・逸品として募集いたします。おひとり1点(または、1セット)を掲出・展示する企画をいたします。会員の皆様からの自作の作品、**先着限定** 20点を下記要領により募集いたします。

なお、スペースの制約上、作品数に限りがあり、又、あまりに高価な作品や古いものなど、保管上特に注意が必要な品々は出品をご遠慮頂きますので、あらかじめご了承ください。

記

1. 出品作品は自ら制作したもので、書・絵画、版画・写真・工芸品・陶芸品・彫刻・標本など、**先着限定** 20点。各々、作品には制作にあたっての、動機や楽しい話や苦労話など思い出を、400字程度にまとめて提出してください。制作ストーリーとして作品の傍らにキャプションとして1点につき1枚づつ設置いたします。

2. 出品に先だち、「**出品に関する打ち合わせ**」をさせて頂き、その後作品をお持込み、郵送、宅配などで、下記にご提出いただきます。

提出先：獨協同窓会事務局 獨協文化祭担当宛 沖山、浜村、柳原

- ・作品を事務局にお持込の際は、事務取扱いの都合上、事前にご連絡ください。
- ・送料につきましては、ご本人さま負担をお願いします。

住所 〒112-0014 文京区関口3-8-1 電話 03-3946-6352

メールアドレス：info@dokkyo-mejiro.com

事務取扱い日時 毎週 水・木曜日 13:00～16:30 担当 鈴木・筒井

3. 出品ご希望の方は、申し込み方法、提出期間、掲示場所、また展示方法など詳細を記した「**出品要項**」を配布いたします。ご参照ください。なおHPでもご覧になれます。その他、出品作品について、また、その適・不適など全般に亘るお問い合わせは、広報 柳原まで。連絡先：080-1084-6629



寄付金納入者一覧 (「85号」以降)

(敬称略)

中 島 一 (昭和12)	長 崎 雅 彦 (昭和34)	森 一 博 (昭和47)	菅 谷 敦 人 (昭和58)
竹 内 正 和 (昭和18)	原 鉄 一 (昭和34)	秋 元 雅 之 (昭和48)	堀 井 有 尚 (昭和59)
田 村 康 三 (昭和19)	西 部 曠 介 (昭和34)	木 村 宗 孝 (昭和50)	山 崎 博 之 (昭和59)
神 山 一 郎 (昭和20)	益 井 邦 夫 (昭和37)	入 野 満 哉 (昭和51)	福 澄 重 泰 (昭和61)
畦 森 公 望 (昭和20)	大 野 都 辰 (昭和37)	谷 田 貝 茂 雄 (昭和51)	益 子 泰 雅 (昭和62)
細 貝 祐 太 郎 (昭和20)	東 郷 庸 史 (昭和38)	伊 藤 公 一 (昭和51)	白 木 原 健 (平成1)
平 洋 (昭和20)	柳 原 克 忠 (昭和39)	平 山 雅 仁 (昭和52)	弦 間 一 郎 (平成2)
中 原 爽 (昭和20)	岸 田 浩 昭 (昭和39)	渡 辺 直 哉 (昭和53)	玉 井 道 寧 (平成4)
眞 下 博 和 (昭和20)	佐 藤 和 美 (昭和41)	浜 島 秀 徳 (昭和54)	久 保 田 伊 哉 (平成7)
大 井 暲 典 (昭和20)	S35 入学ミックス (昭和41)	野 村 芳 樹 (昭和54)	富 山 彰 夫 (平成15)
大 場 莊 介 (昭和23)	獨 協 1 月 会 (昭和41)	湖 山 泰 成 (昭和54)	平成26年卒成人を祝う会ご父兄
棚 木 光 雄 (昭和26)	宮 崎 輝 雄 (昭和42)	高 田 正 道 (昭和55)	
田 中 重 穂 (昭和26)	大 隅 敏 彦 (昭和46)	長 尾 淳 史 (昭和58)	

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくお願い申し上げます。

編 集 後 記

86号は総会特集として、先ずは4年目の浅野会長のメッセージを巻頭に、予算・決算などの総会議案書、総会特別講演会、懇親会や9月の獨協祭での「第一回 私の趣味・逸品展示会」企画などのご案内。コラムドイツでは、ヨーロッパのトラムを巡る連載がスタート。二つの寄稿を頂いた、一つは三軒茶屋で永く評判の良い「島田洋服店」の島田先輩から、天野校長就任時代のエピソードを、もう一つは、我が

同期の林君が叙勲、この機に祝賀パーティーの写真付きの一文を頂く。また、ぶらり旅ものってきた、好評。と、ここまで書き進めた時、TVのキャスターの声が一変、「熊本市震度7」と。そして余震の繰り返し、大地震だ！被災された方々へ心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。気を取り直して、編集後記に向き合う。本誌が会員相互の情報交換や交流・懇親会のきっかけになればと祈念して。(克記)